

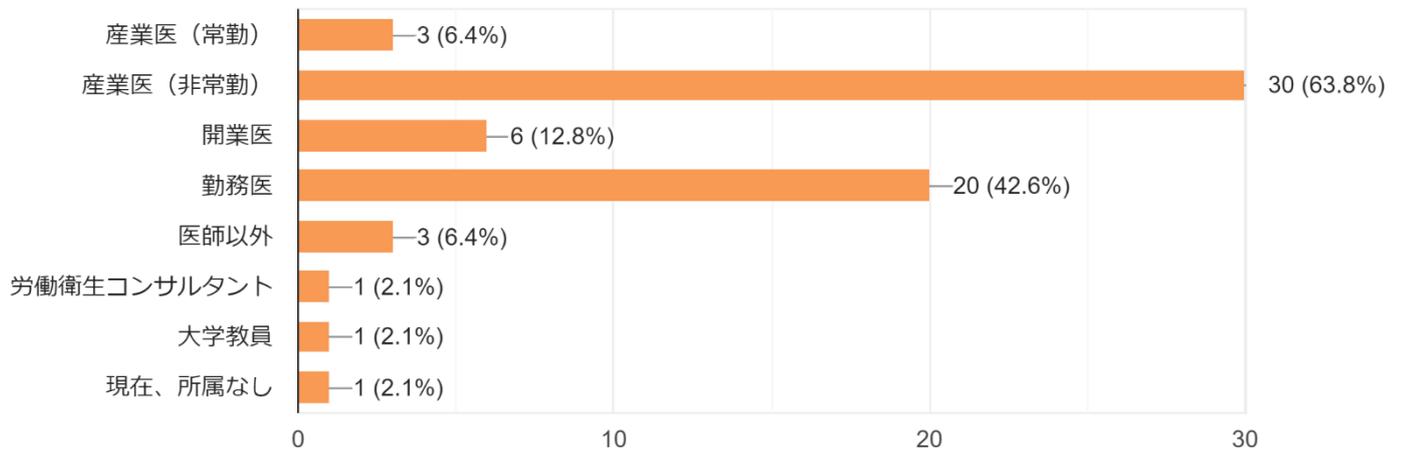
産業医慢性痛セミナー アンケート集計結果

2021年11月14日(日) 10:00~12:30 (ハイブリッド開催)

参加者数 計 101 名 (滋賀会場:38 名 大阪会場:47 名 オンライン:9 名 登壇者 7 名)

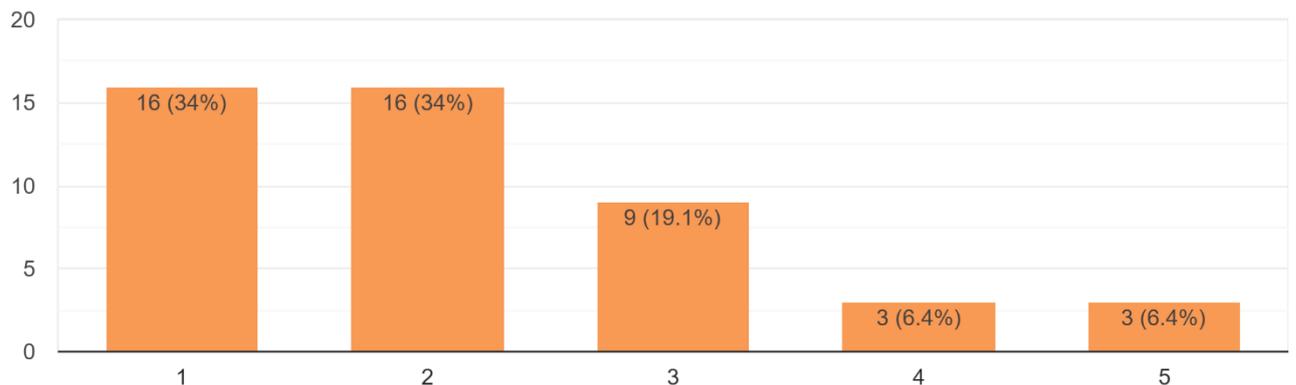
あなたの職種を教えてください。(複数回答可)

47 件の回答



今回のセミナーの感想をお聞かせください。

47 件の回答

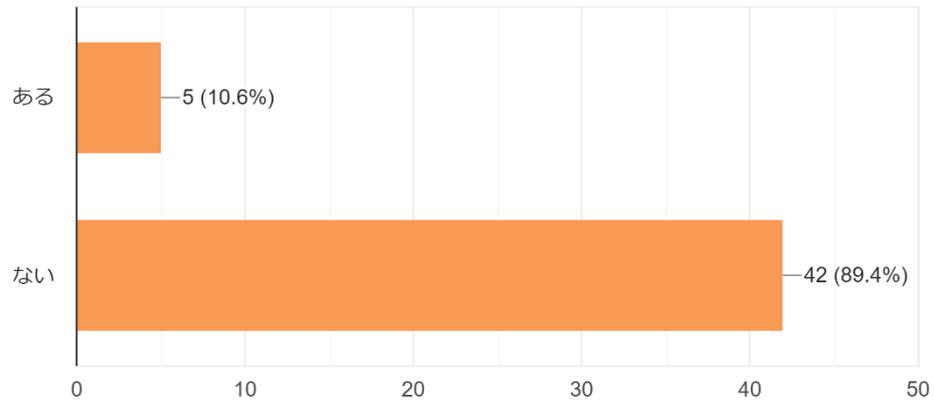


よかった

よくなかった

今年度に慢性痛診療に関連し、本モデル事業の協力医療機関と連携されたケースがありましたか？

47件の回答



産業医慢性痛セミナーのよかった点を挙げてください。

- ・通りいっぺんの産業医講習ではなく、慢性痛との関連の講習はなかなかないため、興味深く拝聴しました。慢性痛予防eラーニング申し込みました。
- ・ペインキャンプの考え方が良かった。
- ・全て非常に参考になった。
- ・体系的に講義が連続し、具体的に取り組むべき内容が分かった。
- ・慢性疼痛身体、心理アプローチ事例
- ・慢性疼痛キャンプを知れた点
- ・慢性疼痛へのアプローチに全人的医療が必要であり、他職種の連携がかかせない事がよく分かりました。
- ・知らないことが多く、新鮮でした。
- ・簡潔にコンパクトにまとめた内容で理解しやすかったです。
- ・講演内容、セミナー運営
- ・気づきに関して、視点の持ち方を勉強させて頂きました。
- ・実践的対策を教えていただけると良かったと思う。
- ・e-learnig まだまにあるならやってみたい
- ・慢性痛診療の具体的な内容を聞いた
- ・具体的な試みが良く理解できた。
- ・ハイブリット開催
- ・e-ラーニングの情報が得られた
- ・慢性疼痛に対する対応の概要がよくわかった

- ・慢性痛の集学的対応の重要性が理解できた
- ・集学的治療の重要性や効果について詳しく知ることができた点。
- ・新しい知見や試みを伺えた点です。集学的の意味を再度考える機会になりました。
- ・疼痛反応など慢性痛への全人的なアプローチの必要性を学べた点
- ・現在の産業医業務で腰痛の問題はなく 恥ずかしながら 全てが新鮮でした
- ・理解しやすかった、痛み軽症例と重症例への対応をもっと区別して講義すべきと思う
- ・講師の関係する治療の効果が示されたこと
- ・慢性疼痛に対する取り組みについて知ることができて良かった。
- ・資料が見やすかった。会場の運営がきちんとされていた。
- ・慢性腰痛の3泊4日入院プログラム、自己効力感について
- ・集学的治療についてよく理解できました。
- ・他職種との情報共有が上手くいっていると思えた
- ・慢性疼痛を持つ労働者を紹介できる可能性があることを知ったこと。
- ・原因不明の慢性腰痛の具体的な症例を提示していただけたのが、非常に勉強になりました。
- ・学際的な取り組みをどの講演もされていてよかった。特に、愛知医大のペインキャンプについての講演が 具体的で、よく理解できた。

産業医の先生へお伺いします。産業医として慢性の痛みの問題についてご意見を願います。

- ・個別では、多様であり、主治医がどう考えているわからない上に、自分では検査も治療もできず悩ましいです。
- ・そう言えば、受け持っている二ヶ所の製造業の事業所(500人規模、300人規模)でも慢性疼痛の方々が複数おられます。
- ・どうしても薬物治療に頼りがちになってしまう
- ・作業効率低下だけでなく、生活の質も落とす病態だと思うので、重要視したいと思います。
- ・線維筋痛症としての診断が難しい
- ・私の職場の労働者の頸肩腕症状について実態を調べてみたいと思いました。
- ・生産性の低下 人事上の処遇
- ・メンタル不調に伴うことが多くどう対応してよいか困る
- ・対応が難しい印象があります。
- ・医療現場では慢性の腰痛が多く、対策を案じていたが、軽症のうちに対応を講じ、ストレスなど精神面にも配慮することの重要性を改めて認識した。
- ・慢性疼痛で困っている事例の相談、支援、治療の窓口が広がればよいと思いました。
- ・本人や周囲が意識しなくても労働生産性は低下していると思われます。今回の講義で慢性痛は産業医学の観点からも対応が必要であると感じました

- ・専門医に依頼すべき指標のようなものが欲しい、愛知のセンターのように依頼を受けられる施設は少ない
- ・今日の講演内容が医療者に周知されること
- ・精神的なサポートの重要性について改めて認識しました。当院には臨床心理士を 2 名配置しております。心理士の働きについて診療報酬の点数がつくことを切に願っております。
- ・作業効率を下げってしまう。
- ・疼痛患者は多いためすべての患者に集学的治療ができるかどうかがもんだいかと
- ・多要素を考慮する必要を感じた
- ・痛みが出るのが怖くてしっかり働かない人、痛みを抱えながら我慢して働いて退職していく人、・・・様々なケースがみられます。
- ・正直、「整形にかかって先生と相談して」と自分からは積極的にかかわっていませんでした。
- ・ガイドラインの本厚すぎる
- ・保健指導として睡眠、食事、運動の具体的事項を話し、近医受診を勧める以外に何かないでしょうか、お教えてください。

今後どんな企画を希望されますか。

- ・e ラーニング併用でセミナーを受講できるとありがたいです
- ・地域の連携先を念頭においたセミナー
- ・介護現場での腰痛予防、スマホ首対策。
- ・高齢労働者の慢性疼痛
- ・薬物治療以外知見など
- ・何でも勉強になります
- ・どんどんなんでも
- ・メンタル不調と痛みなどの身体症状
- ・慢性疼痛への産業医が現場で出来る具体的な対応方法、紹介基準などを教えて貰えると嬉しいです。せっかく頂いた情報を有効に活用出来るような企画を希望します。
- ・事例の深掘り（事業所・会社を含めた多くの関係者がいつどう関わったか）
- ・「産業医と痛み」に関してであれば、職種や痛みの重症度を分けた対応。
- ・休職者への対応
- ・産業保健対象の、慢性疼痛に関するセミナーを是非とも継続していただきたいです。
- ・今回のようなセミナーを定期的に受けていきたいと思います。
- ・慢性疼痛を部位別（頭痛、腰痛等）に分け、それぞれプレゼンティズム等での労働生産性の低下を金額で評価し、会社に対応を検討してもらえるような企画。

このセミナーをどこでお知りになりましたか？（複数回答可）

47件の回答

